

# 自立に向けた当事者自身の活動を ボランティアが支える

- のわみ相談所 -

愛知県一宮市に、ホームレスの人たちや生活困窮者の人たちの自立を支援する団体があります。20年を越える活動の中心には、決して一方通行の「支援」ではない、当事者自身が自立のために助け合う仕組みがありました。

「のわみ相談所」って？

のわみ相談所の活動は1995年に始まりました。活動を始めた当初は、名古屋市平和公園一帯にいたホームレスの人たちに対して、おにぎりの提供や古着の配布、ソフトボール大会の開催などを行っていたそうです。2000年には民間団体としては愛知県で初めて、名古屋市南区にシェルターを開設しました。その後、2006年に活動拠点を一宮市に移し、ホームレスや生活困窮者の人たちに対して自立支援を続けています。

当事者同士が支え合う仕組み

のわみ相談所は現在、炊き出しやシェルターの運営だけでなく、暮らしに関する相談やフードバンクなど、ホームレスや生活困窮者の人たちの自立に向けて、必要な様々な事業を展開しています。ほかにも、NPO法人のわみサポートセンターと一般社団法人インクルーシブのわみを設立し、ホームレスの人たちの就労に向けた足がかりとなるリサイクルショップと便利屋「のわミー」などを運営し、雇用の創出を行っています。その中心にあるのが当事者組織「救生の会」で、月に2回、学習会を開き、そこの学び合いの中から事業が生まれています。

活動を支えるボランティアの存在

当事者によって広がる活動は、およそ50人ものボランティアによって支えられています。代表の三輪さんを始め、支援に関わっている人はすべてボランティア。弁護士や医師などの専門家や教師を定年退職された方など、様々な人が自分の得意分野を活かして活動しています。

これからの取り組み

のわみ相談所では、新たな取り組みとして、NPO法人わっぱの会を始め多くの団体個人と共に、生活困窮者の自立を支援する「地域共同基金」を設立する準備をしています。この基金は、「グラミン日本」とも連携し、生活困窮者の当面の生活を支えるための小口融資を行う機関となる予定です。2019年1月27日13時より「ソーネOZONE(名古屋市北区山田2-11-62)」で準備会設立集会を開く予定ですので、参加を希望される方は下記よりお問い合わせください。

物資・資金の募集

のわみ相談所には、様々な事情を抱えて暮らしに必要な物資を求めている人がたくさん相談に訪れます。みなさんからの物資や資金の協力をお願いします。物資を送るにあたっては、賞味期限が残り1か月を切っているものや、開封されているものは送付を控えてくださいますようお願いいたします。保存期間が長い缶詰は、大変助かるそうです。また、衣類や石鹸、タオル、下着類も受け付けています。

「グラミン日本」とは... 貧困や生活困窮の状態にある方々に低利・無担保で少額の融資を行い、こうした方々が起業や就労によって貧困や生活困窮から脱却し自立するのを支援するマイクロファイナンス機関。2018年9月に設立された。

## Information

のわみ相談所

〒491-0869 一宮市向山町1-10-4

問い合わせ先

TEL:0586-72-9697 FAX:0586-72-9698

食料等の送付先

〒491-0869 一宮市向山1-10-4

のわみ相談所気付フードバンク

資金の振込先

東海労金 一宮支店 普通 1077822

ノワミノウダンジョ



救生の会



地域交流会

# GO!GO! ボランティア 第24回 はまちゃんが行く!

## 定年後どうする？



はまちゃんより

これから何かしたいと思っ  
たらまず見学。自分の思  
いとすり合わせ、納得し  
たら参加。よくないのは  
つまみ食いや私的感情を  
入れすぎること。皆ボラ  
ンティアだから、いいこと  
も悪いことも“お互い様”  
がいいですね。

ある日はまちゃんの一曰

- 9:00 教室を開ける。  
早く来ている学習  
者と一緒に机や黒  
板を拭くなど
- 10:00 教室開始
- 11:30 終了・片付け
- 11:45 日本人だけで反省会
- 12:10 解散
- 13:30 私の個人授業  
(午前中來られな  
かった人や能力検  
定試験を受ける人)
- 16:30 終了

皆さん、こんにちは。私は現在59歳、現役のサラリーマンです。私はこの年齢から“定年後を見据えたボランティア”についてお話ししてみます。いまや人生80年、65歳で定年を迎え残りの人生をどう過ごすか。家に終日いても奥様はストレスが溜まるといいます。ほどほどの距離感が夫婦円満の秘訣かと(苦笑)。

さて、私が勤めるボランティアは「外国人への日本語学習支援」です。30年くらい前から外国人が増え始め、技能実習制度により若い人も多く来日するようになりました。そういう方は日本で生活するために日本語の習得が欠かせません。でもお金は極力かけたくないの、それを支援しているのがボランティアの運営する日本語教室です。私もある教室に20年間、毎週日曜日に通っています。きっかけは会社で見た地域の日本語ボランティア募集記事です。当時38歳くらいで仕事も忙しかったのですが「定年後もずっとできるものは何だろう?」と考えていたところですから「これだ!」と思いました。

私が20年続けて来て得た、長続きさせる秘訣は 活動場所が家から近い

お金をあまり使う必要がない 人や社会の役に立つ 頭を使うなどです。そして自分にとっても有難いことは、外国の方やボランティアと話すので新鮮な気持ちになれる。身だしなみ、態度、言葉使いに気をつけるようになるので家族、地域の方に対しても好印象となるなどです。

日本語指導に「英語が必要では?」とよく言われますが、英語圏以外の人も多いので、原則わかりやすい日本語で指導すればよいのです。例えば熟語はわかりやすい訓読みに置き換える。イラストや写真を活用するなど。また相手の文化、風習に興味を示してあげるのも大事です。学習される方は生活のため、日本語能力検定試験に合格するためなど、いろいろな目的を持っています。そして最初はカタコトだった人が次第に話し、書けるようになり、日本語で丁寧に感謝の言葉を述べてくれる。この嬉しさは格別です。教え方の失敗もときにはありますが、気づいたらすぐ直す、その繰り返しです。また学習以外にもお国自慢料理持ち寄りパーティ、花見や夏祭りなどレクリエーションを取り入れることで緩急をつけています。

最後に、男性が定年後ボランティアサークルに入るときの注意点を。挨拶をすること 会社時代の地位を誇らないこと あまり効率化、組織化と焦らないこと 人の嫌がることも黙ってやること PCの能力などは威張らず教えてあげることなど、私の自戒をこめて書き出しました。要はお互いに尊敬し合い、日本人、外国人問わず、教室を通じて多文化共生社会を作っていくことでしょね。さあ、あなたも明日から一緒にやりませんか?



巻き寿司を皆で作る食事会